

IS09001による情報伝達システムの改善

○中川真友子 高橋紀江 柳田 勝 川田 晃

大阪府・渡辺第二病院

医療機関における情報伝達はリスクマネジメント、経営管理、患者満足度向上などに密接に関わっている。当院は平成16年11月IS09001認証取得を契機に院内における情報伝達システムの改善を行ってきたので改善事例も含め、実際の活動を報告する。

①声による伝達

- i) 朝礼における病院基本サービスの復唱
- ii) 看護部における入院患者情報の「申し送り」

②PHSシステムの強化

- i) 院内の固定電話の撤去、PHS携帯電話の配布数の増加

③掲示物の充実

- i) 病院理念、月間目標、業務工程図の掲示
- ii) 全掲示物のラミネーター処理、掲示者の明確化

④ノートの利用

- i) 職員全員を含んだ「伝達網」を作成し、情報伝達時に、日時と署名を義務化
- ii) 看護部から医局への患者関連情報を主治医別に「指示受けノート」として作製し、一括管理

⑤指示棒の留置

- i) カルテに指示棒の留置

⑥ITネットワークの充実

- i) 「サイボズ6」を採用し、電子メール、スケジュール管理、会議議事録、様式集を管理

⑦マイクロソフト社アクセスによるデータベース化の開始

- i) 入院患者基本情報
- ii) 入院紹介機関
- iii) 医療事故報告書

⑧会議資料のペーパーレス化の実践

- i) 会議室に多数のディスプレイ、プロジェクターの設置

以上を実践していることにより、患者情報と病院業務関連情報の伝達もれの減少、医療事故件数の減少、会議時間の短縮、労務環境の効率化が見られた。